

研究代表者 所属・職：社会福祉学部・教授

氏 名：野尻 紀恵

研究課題名：子どもを支援する活動者のネットワーク形成プロセスに関する研究  
—美浜町におけるフォーマル及びインフォーマル実践に基づいて—

### 研究の概要

本研究は、美浜町を対象地域とした。

美浜町では、若年層を中心に人口の町外転出が続き、人口・世帯の減少傾向、少子高齢化の進行が顕著である。そのため、町内での子育ては地域とつながりにくくなっている。一方で、地縁の強さは残っており、様々な課題に直面した家族の個別情報や、子育てを監視されているような息苦しさもある。また、温泉・観光に従事する家庭等の子どもたちが一人で夜を過ごすという事例も見られる。さらに、空き家の利用等により、都心部を離れて子育てをしたい若者世代が名古屋等から家族と共に転入してくる新たな流入層の子育ては、地域とのつながりが希薄なことも課題である。

これらの状況から、子ども自身や子育て世代が地域とつながり、安心して過ごせる空間・時間をいかに創出していくかは、美浜町の課題の一つとなっている。

全国的には、子どもの貧困や社会的孤立などの問題状況に対して、各地で学習支援や子ども食堂が行われるようになり、年々その数は増加傾向にある。例えば「子ども食堂」では、地域の潜在的な資源が活用され、数多くの人たちが集いコミュニティを形成することができている。このような取り組みは、子どもたちに安心した食事の場を与えるだけでなく、そこに集う大人もつながり、多様な関係性が紡ぎだされているという報告もある。まさに「ふくし」を地域で展開する地域ふくし拠点となる可能性を示していると言える。

美浜町においては、昨年度までに「子ども食堂」1つ、「子どもの夜の居場所（子ども食堂含む）」が1つ、「子育て世代を意識したみんなの居場所」が1つ、「子育て中の母親の居場所」が1つ立ち上がり、3年前にこれらの「場」が皆無であった中、野

尻が「子どもの夜の居場所」実践研究を開始してから、実践の広がりが見られるようになった。しかし、これらインフォーマルな活動者同士のつながりや、インフォーマルな活動者と学校や専門職とのつながりは上手くできていないのが現状である。

よって、2020年度の本研究は、美浜町において子ども・子育てに働きかける地域のインフォーマルな活動者、学校、専門職等が、何をきっかけにネットワークを広げていくのか、そのネットワーク化のプロセスはどのような様態であるのか、実践に基づいて明らかにしていくことを目的とした。

### 達成状況・成果内容

2020年度は、新型コロナウイルス感染症拡大により、またその防止に努めるために、地域における居場所支援は多くが活動を自粛することになった。美浜町において昨年度までに立ち上がった「子ども食堂」1つ、「子どもの夜の居場所（子ども食堂含む）」1つ、「子育て世代を意識したみんなの居場所」1つ、「子育て中の母親の居場所」1つの合計4つの子ども・子育てのための居場所支援も例外ではなく、昨年度はほとんど開催・実践できなかった。

上記概要に示したようなネットワークを広げるような活動そのものが成されなかったため、ネットワークのプロセスがどのような様態であるのかについて実践に基づいて明らかにすることは不可能であった。

しかし、前年度までに居場所支援の実践が徐々に広がり始めていたこと、また前年度までに居場所支援者が集う場づくりをしていたこともあり、美浜町における子どものための居場所支援実践者の集まりを、美浜町役場にて開催することができ

た(1回)。新型コロナウイルス感染症で子どもたちが自由に遊ぶことができないことや、感染症への予防のために学校行事などが縮小されていることなど、子どもや子育てにとって心配な要素が多いという声が寄せられた。また、「居場所支援者」として、何かできないかを常に考え続けている悩みや、工夫を互いに情報交換することができた。コロナ禍であっても完全に止まるのではなく、この状況の中でできることを模索し続けることは、今後の活動を継続させる糧になるという実感を互いに持つことができた。また、美浜町役場や美浜町社会福祉協議会の担当者も、これらの活動を支えることの必要性を強調していた。

以上から、美浜町役場、美浜町社会福祉協議会とともに、美浜町において子ども・子育てに働きかける地域のインフォーマルな活動者、学校、専門職等が、ネットワークを広げていく可能性を感じることができた。

さらに、新型コロナウイルス感染症のために当初予定していた活動ができないことを受け、本助成金の使用変更を申請した。それにより、美浜町「子ども食堂」の啓発、住民の活動意欲の醸成、実践者の拡大を目的として、「子ども食堂」紹介リーフレットを作成することとした。「子ども食堂」のもつネガティブな印象を取り除き、居場所としての活動の裾野を広げることは、今後の子ども・子育てのための地域拠点ネットワーク化に寄与する考えたからである。この取り組みを美浜町と協議し、美浜町のシティプロモーションマガジンの「みはまデイズ」とコラボすることができた。「みはまデイズ」特別号シティプロモーションマガジン「みはまデイズ×日本福祉大学野尻研究室」として、1000部印刷し、美浜町役場、図書館、公民館、社会福祉協議会、大学構内、C ラボ等々に配架することができた。また、印刷物は様々な機会に配布することができるとともに、「みはまデイズ」ホームページで紹介されており、美浜町「子ども食堂」の啓発、住民の活動意欲の醸成、実践者の拡大の目的に果たす役割は大きいと考えられる。

<https://mihamadays.com/magazine/?fbclid=IwAR10jr-G5ZT-jjerV1oaqcVf3pGmhHCXFQ1WfNPPAJ3IJfa8aAxEAGAkOFM>



## 今後の展望

美浜町のシティプロモーションマガジンの「みはまデイズ」とコラボした、「みはまデイズ」特別号シティプロモーションマガジン「みはまデイズ×日本福祉大学野尻研究室」を、美浜町役場、図書館、公民館、社会福祉協議会、大学構内、C ラボ等々に配架、様々な機会での配布、「みはまデイズ」ホームページでの紹介により、美浜町「子ども食堂」の啓発、住民の活動意欲の醸成、実践者の拡大をめざすことができる。その広がりを引き続きアクションリサーチし記録することで、ネットワーク化の様態を探ることができると考えている。